

令和5年5月12日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、よろしくお願いいたします。今日は案件は、私からは二つです。一つは5月の補正予算案の概要。もう一つは、三つの施設整備事業について進め方を変更しましたので、それについてのご説明です。まず一つ目の5月補正予算案の概要です。お手元にA4の横の資料があると思いますけども、それに基づいてお話をさせていただきます。5月補正予算案の概要ですけども、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受ける市民生活を支援するための補正予算案を編成し、5月19日に開催される市議会、5月臨時会に提出をいたします。補正予算の規模はすべて一般会計で、約36億4100万円の総額になります。この内容ですけれども、総務省が4月21日に発表をした令和5年3月分の消費者物価指数は、前年同月比3.2%の上昇となっています。昨年度から物価の高騰が続いており、市民生活や企業活動に大きな影響を及ぼしています。こうした状況を踏まえて、昨年度に引き続き物価高騰の負担を軽減するための支援に取り組んでいきます。まず、低所得の子育て世帯への支援ですが、4月補正で児童一人あたり5万円を支給する予算を計上をいたしました。5月末から支給を開始する予定にしております。今回の5月補正でも物価高騰の影響を受ける市民生活を速やかに支援するため、三つの取り組みを進めます。一つ目は、低所得世帯への支援として、住民税非課税世帯等に対し、8月から1世帯あたり3万円を支給をいたします。予算は24億9500万円です。二つ目は、子育て世帯への支援として、物価高騰の中であっても市立の小中学校やこども園に通うお子さんの保護者が負担する給食費が増えないよう食材料費の高騰分を負担をいたします。これが2億6590万円となります。三つ目は、消費活動の維持への支援として、モバイル決済サービスを活用して8月から10月までの3カ月間、一人最大1万5000円のポイントを還元するとともに、商店街などへ助成することで次回のお買い物に使用できる割り引きクーポン券を発行するという事業を実施いたします。予算は8億8000万円となります。なお、これらすべて生活者支援であります市民生活に関するものでしたが、物価高騰の影響を受ける事業者への支援につきましても、県との調整を図って、6月補正予算において、県市で連携した各業種へのきめ細かな支援を実施するための予算を計上する予定にしております。補正予算については以上です。もう一つは、三つの施設整備事業に

ついてというA4の縦のものがあると思います。まず、これは仮称の海洋・地球総合ミュージアムと大浜公園スタジアムになります。整備を計画または検討している三つの施設については、SDGsや脱炭素など新しい時代に適用したより良い施設、事業内容とするため、公的関与の意義と民間事業者の力の活用方法について改めて整理したうえで、施設整備内容、展示内容、検討の進め方を以下のとおり変更をいたしました。この変更を踏まえた施設整備内容、これ等がちょっと抜けてますが、施設整備内容等については、今後、市議会をはじめ市民の皆様の理解を得ながら進めてまいります。まず、仮称の海洋・地球総合ミュージアムの整備事業ですが、これは既に契約済みとなっている案件ですが、まず基本認識として、海洋保全意識の醸成や研究開発力への貢献という公的関与の意義を踏まえた展示内容、運営等をいたします。

これまでの延長上のミュージアム展示ではなく、持続可能性の観点から少なくとも15年先も魅力ある内容に進化し続けられるようという、どういうコンセプトで、どういう展示とすべきかを再整理し、より進化した展示内容等といたします。見直しの内容ですが、令和5年2月に事業契約を締結しました株式会社静岡海洋文化ネットワークと次の観点で既に交渉を開始いたしました。今求められているカーボンニュートラル、脱炭素やサステイナブル、持続可能性という視点を踏まえて、次世代に対応した脱炭素化などの環境性能や、DXなどの最先端の科学技術を継続的に取り入れ、進化し続けることができる展示内容といたします。海洋保全意識の醸成や、多様な主体と連携した研究開発部の向上への貢献などの目的で公的施設としての整備意義を体現した展示内容、運営といたします。次に大浜公園の再整備事業です。基本認識としておりますけども、これについてはこの整備内容が今の公園と性格が異なるものになっておりますけども、今まであまり十分に説明をされていなかったというふうに私は認識をしております。私自身が4月13日に市長になってからこの内容についてはいろいろ聞いておりましたけど、なかなか公園の役割の変化というのは明確でなかったもので、これを再整理をいたしました。これまでの大浜公園は、主に地域にお住まいの皆さんが利用する近隣公園としての役割と、夏季のプール利用の役割を担ってきました。プールエリアについては、夏季以外は閉鎖となっております。新しい時代の新たな大浜海浜公園ですけども、これから整備するというものですけども、これについてはSDGsや脱炭素に貢献し、海辺の特性を生かした広域利用の公園としての役割、夏季のプール利用の役割、そしてプールエリアを含めて1年中楽しめる公園の役割を担うことに変更をいたしました。このことを踏まえた整備・運営内容といたします。これは今回、この役割の変更ということを私がしたわけではないんですけども、この役割の変更をしたということが今まで十分説明されていなかったと思います。何か夏季利用のプールを

もう一度つくるようなイメージが強かったのではないかと思いますけども、ポイントは今申しましたような広域利用の公園に変えたということと、そのエリア全体について1年中使えるようにしたと、ここに大きな変更点があります。その変更点を踏まえて、運営については民間事業者のノウハウを生かして夏季のプール利用。そしてプールの利用のない時期は、1年中海辺空間とプールの水辺空間としての魅力を生かした四季を通じて楽しめる利用ができる運営といたします。見直しの内容ですけども、詳しくここに経緯が書いておりますけども令和5年1月に入札公告を行って、3月に既に契約をして、ごめんなさい、落札者を選定をしております。この選定の際に、これは事業者選定委員会というところが選定をしたわけですけども、その中に総評として条件といたしますか意見がついています。この意見をしっかり踏まえた整備内容にする必要があるというふうに思っております。それからもう一つは、静岡市では、これは2050年の脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めるために地球温暖化対策実行計画、これを3月に改訂しました。やはりこの事業においては、この地球温暖化対策実行計画を踏まえた内容にする必要があると思っております。従って、以上の経緯を踏まえてこの事業をより充実したものにするために、落札者と次の点で施設内容について協議を行っていきます。一つは、事業者選定委員会での総評を反映した事業とする。その総評の案は四つあります。プールゾーンと公園機能ゾーン、その収益施設の一体感が感じられるようにとか、デザインの問題であるとか、あるいは公園利用者への視点の配慮、松林ゾーンの良さを生かした計画、子どもたちの安全性の問題、こういうふういろいろな問題、あとは年間を通じての利用ですね。これらの条件がしっかりついています。しかし今までのところ、これについて十分な変更がなされていませんでしたので、これについてこれから事業者としっかり協議をして、この内容を踏まえた内容に変更してまいりたいと思います。それから脱炭素社会の実現に向けたこの反映ですね。地球温暖化対策実行計画を反映した事業内容にさせていただくということになります。3番目ですが、スタジアムの検討です。これについては、まず基本認識ですけども、現在のIAIスタジアムが老朽化が進んでいて何らかの対応が必要です。静岡市サッカースタジアムを生かしたまちづくり検討委員会は、今年の2月、JR清水駅東口のENEOSの土地が最有力候補地としてふさわしいとしました。しかしこの場所はスタジアムを新設する場合には、サッカー利用だけでは採算が成り立たないのは明白です。このため、多様な利用方法などについて民間事業者の創意工夫を取り入れた施設とする必要があります。このことから、民間事業者の創意工夫や自由な発想を制限することがないように、現段階では市が率先してスタジアム施設計画案は描かないということにいたしました。まず利用条件等の調査をしっかりと行って、その結果を公表を

いたします。このため、具体的な以下の検討の進め方とします。まず、見直しの内容ですが、当初は市がF S、この事業可能性調査ですね、フィージビリティ・スタディをする予定でした。そして、施設整備計画案というのを提示する予定でした。しかし、民間事業者等による施設整備計画案の検討による不確実性をできるだけ小さくすると。いろんな条件が分からない状態では検討しようがありませんので、まず ENEOS 用地の活用上の課題や利用条件を整理するための調査をより精緻に行います。具体的には以下のとおり進めます。まずはこの土地における津波、土壤汚染、地質などについて調べます。そして臨港地区、用途地域などの法規制がどうなっているか。また、地区の開発に伴う交通問題について検討を行います。そしてどんな手続きが必要なのか、あるいは対策などを明らかにいたします。併せてI A Iスタジアムについても、Jリーグ基準を満たすための全観客席への屋根設置やトイレの改修、設備機器などの更新についての概算費用を明らかにいたします。この調査の結果については、民間、社会に提示をして、自由な発想で施設計画案を書いていただくとか議論をしていただくと、そういった活発な議論を進むようにしたいと思っております。このために市としては、直ちに調査の実施事業者の公募手続きを開始をしたいと思っております。以上が私からのご説明とさせていただきます。ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただ今の発表案件につきまして皆様からのご質問をお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。まず海洋・地球総合ミュージアムについて。見直しの内容が、具体性が分からないのですけれども、最先端の科学技術を継続的に取り入れ進化し続けることができる展示内容というのは、どんなものを想定されているのでしょうか。

◆市長

これからそこは協議するということですね。デジタル系の展示をしっかりと入れるということです。あるいはVRとかバーチャル系のものも入れていくということですね。そして研究開発の関係ということですから、今、駿河湾をテーマにいろんな研究がこれから進もうとしていますから、その中でいろんな技術が出てきます。海中ドローンで海中なんかを自由に見られるような時代が来るとすることも近いと思っていますから、具体的にはそういうようなものを取り入れたような展示ですね。それにしたいと思っております。あるいはJ A M S T E C、

地球開発研究機構が近くにありますが、ごめんなさい、海洋開発研究機構ですね。（正しくは海洋研究開発機構）が近くに船「ちきゅう」という船がありますから、そういったJAMSTECとも連携するということもありますし、とにかくいろんな科学技術を持ってる方々と連携をする展示にしたいと思っております。具体的にはこれからしっかり協議をしてみたいと思います。

◆NHK

でしたら、おっしゃった映像による展示ですとか、駿河湾の研究を見れるようにするですとかJAMSTECとの連携、これは田辺市政時代にも言われていたことですので、変わらないんじゃないでしょうか。

◆市長

変わらないとは私は思っておりませんが、実際に契約の中にはそういうものは入っていないと理解しておりますので、もしそれがそういうふうに言われていたのであれば提示をしていただければと思います。そして、それが私の理解が誤っていればそれは理解が違ってたと申し上げたいと思いますけれども、少なくとも私の理解では、田辺市長がそのようなことをおっしゃっていないと理解しております。

◆NHK

田辺さんの記者会見録などをご覧いただければいいかと思えますけれども、難波さん、この点について重要なこととして市の負担が非常に巨額なので、それを圧縮するために生態展示を減らして映像展示を増やすということをおっしゃっていたと思います。まず、予算は減らせるのでしょうか。

◆市長

これはやってみて、とにかく展示内容をしっかり精査をしてみて、それからやっていくということですね。まず大事なのは金額を下げるということを前提でものを考えるのではなくて、魅力ある展示ですね、いつまでたっても魅力ある展示をするというのが一番大事だと思っています。こういった施設についてよくあるのは、開館当初が最も魅力的で、だんだんと他の同様の施設が整備をされていくうちに競争力は低下していくということがよく見られますから、そういうことがないように集客力、魅力の点で持続可能性を高めていくということが大事だと思っています。そして、そうやって集客力が高まれば自然に費用の面でも優位な面が出てくると。つまり採算が良くなるので、そういう面では市の負担が下がるということはあると思いますが、それは結果としてというふうには私は

理解をしております。ぜひそのようになればいいし、なるとは思っておりますけども、それはあえて最初に目的化はしておりません。以上です。

◆NHK

選挙期間中含めて 169 億円という市の負担が巨額過ぎる、これを圧縮したいということは明確におっしゃっていたと思います。ただ、今回それを目的化しないということは、その点では発言の修正と捉えてよろしいでしょうか。

◆市長

発言の修正と捉えていただいても結構ですけれども、これは事業者がいることですから。はっきり申しますと、市長としての立場と候補者としての立場は当然違うと思っております。市長としての立場であれば、これは既にある契約を尊重したうえでどういう方向に持っていくかというのが大事だと思っております。契約においては 169 億というのはもうこれは契約で決まっていたわけですから、それを下げることが前提として交渉するというのは先方との関係からといても適切ではないと思っております。ただ、結果として下げることができれば、それは非常にいいことだと思いますけれども、市長という責任ある立場として既にある契約に対して金額を下げるということを前提で交渉するべきでないこのように理解をしております。

◆NHK

生態展示を減らすということについてはいかがでしょうか。具体的には 1700 トンの水槽をスケールダウンするのですとか、そういったことはいかがでしょうか。

◆市長

これはデジタル系の展示を増やせば、あるいは研究開発を増やせば、生態展示のほうは一定程度減少するということは十分あると思っております。大型水槽をどうするかどうかというのは、そういう具体的な問題を現時点で検討するような、あるいは言及するような話ではないと思っております。あくまでそれは交渉の段階で議論が進めるべき問題だと思っております。

◆NHK

維持管理に手間や費用がかかる生態展示を、なるべく減らせるなら減らすに越したことはないという考えは基本線としてありますか。

◆市長

それはあります。

◆NHK

分かりました。スタジアムについても伺いますが、ちょっとこれまでおっしゃっていたことと新しいことが。アイスタに全観客席屋根設置という点は新しいかなと思うんですが、他は前回までおっしゃったことと同じかなと思ったんですけども、いずれにしろアイスタを活用し続けるということも選択肢として、それは維持していかれるという考えはあるわけですね。

◆市長

その選択肢もありますし、やっぱり現施設がどのぐらい改修に時間、お金がかかるのか、どういう問題が生じるのかっていうことですね。あるいは改修期間がどのぐらいかかるのというのを踏まえたうえでどういう整備をするかということは大事ですので、これは当然検討しなければいけない内容だと思っております。それから新しいことがないという点については、これは4月の段階でお話しをしたことをより明確に文章として細かくお示しをしたということです。分かりやすさというのが非常に大事だと思っておりますので、こういう形で改めて発表させていただきました。

◆NHK

前回は伺いましたが、施設整備計画を市が示さないということについて、逆にこれだけ新しいものをつくるのが非常に困難な課題の多い土地で、市が施設のイメージ案を示さないで民間が手を上げてもらえるものなのか。市長は大体そういうイメージとか、こうすれば何社かは手が上がるなというイメージ図を持っていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

そういうことを予見をしてやるということではなくて、実際にいろんな方が関心を持ってくださるよう、つまり逆にいうと条件を示さないで、土壤汚染がどのくらいになるか分からないとか、土壤汚染じゃなくて、土壤の改良費がどうなるか分からないとか、都市計画がどうなるか分からないというような状態でいくら外に提示しても誰も検討しようがないというのが実態だと思います。検討していただくためには、いろんな施設整備計画案というのをつくっていただくためには、条件を明確にしておくというのが極めて重要だと思っておりますので、これを提示することによっていろんなアイデアは必ず出てくると思っ

ております。誰と誰という問題ではなくて、こういうものについてはいろんな提案が世の中されるのが普通だと思いますから、ここについても条件をしっかりと提示すればいくつかの案は出てくるというふうに私は確信をしております。

◆NHK

いずれにしろ、田辺前市長が発言されていたのと同じように、民間主導で建設してほしいというこのスタンスは難波市長も同じですか。

◆市長

これはまだ分からないですね。これはまだ事業可能性を検討しているわけですから、誰がどういう負担でやるか。あるいは、ここにも先ほどの二つはPFIでしたけど、これの整備形態、運営形態については白紙というのが私の答えです。今の考えです。そういう施設整備計画を出しているうちにいろんな負担の在り方、公的関与の在り方というのが自然に決まってくるというふうに思っています。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

そのほか、発表案件に関するご質問いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞社

読売新聞社です。今のスタジアムの関係で、調査については、直ちに調査の実施事業者の公募手続きを開始されるということですが、調査期間のイメージみたいなものはお持ちでしょうか。

◆市長

調査期間は、半年ぐらいでは一つの答えを出したいと思っています。そのぐらいのイメージですね。ただ、内容の検討によってこれからいろいろ、例えばよそ様の土地でありますから、その中でやるときにいろんな支障も生じる可能性がありますので遅れる可能性はあるとは思いますが、まず半年ぐらいで一定の取りまとめはしたいと思っています。最終報告にするかどうかは別にして、そんなイメージでおります。

◆読売新聞社

ここに書かれている必要な手続きや対策案などを明らかにするということですね。

◆市長

そうですね。

◆読売新聞社

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。先にテレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。海洋のほうなんですけれども、落札者と見直しの内容について交渉を開始したとあるんですけども、これはこの内容について落札者の事業体のほうは何か現状で意見だったりとか、懸念点だとかそういうのは示されているのでしょうか。

◆市長

これから交渉開始したところですので、交渉を開始することについては分かりましたということですので、まだその反応については十分いただいていないところですので。しっかりとこれから協議をしていきたい、交渉をしていきたいと思っています。

◆テレビ静岡

あと、先ほど結果的にお金が下がればそれはいいことだろうみたいなことをおっしゃっていましたが、お金を逆に結果的に増えるということというのは前提としてないということですか。

◆市長

それはいいですね。前提としてありません。

◆テレビ静岡

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがですか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。海洋文化施設についてなんですが、今、三保にある東海大さんの水族館にたくさんのお魚がいますが、その魚を活用というか、どうしたいというのはありますか。こちらに持ってくるご予定ですか。

◆市長

事業者といますか、東海大学のそういうそのミュージアムとしての実態的な生物を扱う技術ですね、それは非常に高いものがあると思いますから、それはぜひご支援をいただきたいなと思っています。具体的な中身についてはこれから協議をしていく必要があると思います。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。細かい点ですみません。ミュージアムのほうの交渉を開始したのはいつになるのでしょうか。

◆市長

5月11日です。昨日ですね。

◆静岡新聞

もう1点、大浜公園のほうで、これも落札者さんと施設内容について協議を行っていくということで、このアウトプットというか、それはいつぐらいに出されるような考えでしょうか。

◆市長

協議内容については今の計画でいきますと、これは6月の議会中にある程度の契約手続き、次の段階に進むということが必要ですので、その段階でまず一つの段階があると思います。そこまでにどこまで進められるかというところですね。

そして、そのあとさらに次の段階に進んでいくということになります。

◆静岡新聞

この大浜公園、供用開始の予定が2025年7月で、この3事業の中で最も早いと思うんですけども、この供用開始の時期は変更がないと。

◆市長

それは、変更がないように迅速に進めていきたいと思っています。

◆静岡新聞

承知しました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。日経新聞さん、お願いをいたします。

◆日経新聞

日経新聞です。サッカースタジアムの話で、先日の会見で ENEOS との他人様の土地なので ENEOS との協議が必要だという話をおっしゃっていましたが、その協議自体は行われたのかということと、行われていないのであれば先ほどの質問にもあったとおり半年ぐらいでめどを立てたいというところに、この ENEOS との協議というのは不可欠なものと判断するのに、いつごろを想定しているのかというのがまず1点目の質問です。2点目の質問は、就任当初に現在のサッカーの検討委についてスピード感が足りてないんじゃないかという話をしていたのを記憶しておるのですが、それを迅速に進めるため、今トップダウンという形でやっているようなところは見えますが、具体的にどのようなことを行っていくのかということと。あと検討委を去年1年間行いましたが、それを解散して新しい会議体をつくるであったりとか、そういうような抜本的な改革というのを行うおつもりはあるのかということをお聞きしたいです。よろしくお願ひします。

◆市長

まず ENEOS との協議については今日発表いたしましたけども、これから速やかに協議をしてまいりたいと思います。それからスピード感、検討委員会の件ですけども、これについては今回内容の変更からお分かりいただきますように、整備の条件整理ということになりますから、検討委員会に諮るような内容ではない

と思っています。従って当面、検討委員会を開催する予定はないです。その後どうするかについては現在未定ですけども、検討委員会に諮って意見をいただいて、また次の段階に進むというような進め方はしないという予定にしております。

◆日経新聞

今年の予算に一応検討委の予算が入っていると思われませんが、つまり今回の見直しによって市が主導してできるかどうかというところをまず選定する。それに対して検討委に諮ることはしないんですか、それとも。

◆市長

まだ決めていないわけではないですけど、私の個人的考え方を言えば、検討委に諮る、報告はするということはあるかもしれませんが、検討委に諮って意見をいただくということはないと思っています。もうそういう段階ではないと思っています。

◆日経新聞

そのような段階ではないという状態で検討委を残しておくということも、立場のある人がすごく集まっているような会議体ですから効率的ではないというふうな考え方もあると思いますが、できるだけ早めの解散を考えたりということはないということですか。現状では。

◆市長

これは検討委とちょっとお話をしてみたいと思います。こういう内容の変更をしたということを、実はまだ検討委にもご報告をしていない状況ですので、こういう内容に変更しましたのでいかがいたしましょうかということはこれから相談をしたいと思います。

◆日経新聞

分かりました。すみません、最後細かいですが1点。先ほど読売新聞さんの半年ぐらいでめどを立てたいというのは、調査開始から半年なのか、今日から半年ぐらいのイメージをしているのか。

◆市長

開始からですね。

◆日経新聞

つまり、ENEOSさんとの協議がスケジュール的にうまくいかないというところがあったとしたら、その開始が遅れたら終わりも遅れるというイメージですか。

◆市長

そうなりますね。契約が整ってからです。検討の調査の公募をして落札者が決まりますので、それから半年です。落札のときにうまくいかない可能性もありますから、あくまで落札者が決まって契約を結んでから半年ぐらい。

◆日経新聞

そうすると契約、もちろんすぐ決まる話じゃないかもしれませんが、青写真としては契約を決めてから開始するのをどれぐらいというふうに想定していますか。

◆市長

どのぐらいかかりますかね、結果的には、年内には何らかの結果を出すというのが必要だろうと思っています。

◆日経新聞

2023年内に調査結果の一定の取りまとめができるような方向性で示していくと。

◆市長

度じゃなくて、今年ですね。年です。

◆日経新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは、幹事社質問に関連するご質問があればお受けをしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けをしたいと思います。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSテレビです。今日、こども家庭庁が全国の不適切保育の実態の調査結果を発表しました。静岡県は東京に次いでワースト2位となったんですが、静岡市としては今後こういった実態の把握を進めたいとか、対策についてのお考えが

あればお伺いしたいです。

◆市長

まずは大長副市長をトップとして子育て教育統括官と、トップじゃなくて、大長副市長を子育て教育統括官ということで、実際に任命したわけではないですけど、そういう名前でこれからやっていただきます。その中で今の不適切保育の問題だとか、そういうことも今社会にどんな問題があるのかということをもまずしっかり調べる。そして、例えばどこにどんな問題があるかですね。どこにお困りになっているか、子育てをされる方がどこにお困りになっているか。その中、そういうものを一つ一つ丁寧に洗い出していくということが必要だと思っています。その中でこの不適切保育についても、今の不適切保育はある一定の定義でやられていると思いますけども、不適切だけではなくて、利用者の方々の満足度が低いという、そういうものもあると思います。

不適切まではいかないんですけども満足度が低いというのもあると思いますから、そういうものも全部含めた形で洗い直して、そしてどうやっていったらいいのかということ进行分析をするということをやりたいと思っています。これは分析が目的ではなくてその対策をとることが大事ですけども、部分的にいくつかの問題について反応するわけではなくて、いろんな課題というのは根底がまずありますし、そしてその課題自身の中でいろんな連関といいますか、関係性がありますから、そのあたりを全部分析をしたうえでこういう対策をとるとこういう問題がうまく解決できますよねということができてくると思いますから、あくまで解決策を見いだすためにまずはしっかり分析をする。そして社会のお声をお聞きするということですね。子育てでお困りの方々の声をまずしっかりお聞きするというのを最初に始めたいと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビと申します。よろしく申し上げます。リニアの件でお尋ねします。リニアの件で市長は流域市町と連携をしていきたいというお話の中で、利水協にはこだわらないよというようなお話もされましたが、一方で島田市長のほうから、静岡市とは立場が違うので利水協には入ってほしくないみたいなお話も

あったのですが、このことについてはいかがでしょうか。

◆市長

そういうお話があったことは伺っていますし、そういうご懸念があるのは伺っていますし、島田市長さんからも直接そういうお話はいただきました。そういうことで、これはちょっと振り返りますけども、なんでこういうことを私が申し上げたかという、利水協が発足時に、これは静岡市が入りたいけれども入れてもらえなかったのではなくて、私の記憶ですよ、入ったらどうかと先方からお話があって静岡市が断ったという経緯があります。従って、それは前市長が断ったわけですが、それに対して私は、当時は副知事でしたけども、それは入ったほうがいいんだろうなと思っていました。従って、今回市長となりましたので、その当時から思っていたように、前お誘いがあったわけですから、そのお誘いに応じて入りたいんですけども、そういうような入るといふより何らかの形で参加をしたいという表明をいたしました。ただ、先ほどの島田市長さんのそういうお話がありましたので、あえて前お誘いがあったのでそれに、随分前になりませんが、入ったほうがいいんじゃないか、参加したほうがいいんじゃないかということでしたので、今回入ること、参加することについてご懸念がある状態で、私があえて強引に入るといふようなことはやるべきではないと思っておりますので、そういうご懸念を受け止めて何らかの形で連携をさせていただきたいと思っておりますけども、利水協への参加あるいは連携という面では、今の時点はやらないほうがいいのかなというふうに思っております。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。もう1点なんですけど、いわゆる田代ダム案について前回の会見で市長は賛成というか賛同の意を示されたと思うんですが、この件について県のほうではなかなか進んでいないような感じもあるんですが、この進んでいない件についてはいかがですか。

◆市長

これは県とJR東海さんの間で本当にどんな話がされているのかというのは、われわれよく伝わってきていないんですね。あくまで当事者間同士でやられていますので。従って、いろんな報道がされたり、いろんなモヤが聞こえたりしますけれども、私自身はそこで両者の間でそんなに見解の違いがあるとは思っていないんですね。県も田代ダム案は検討したらいいんじゃないかと思っておりますし、JR東海も当然検討したほうがいいと思っております。その中で、何か細かいところで認識の違いがあるぐらいの話だと思っております。

だから、文章のやりとりのようなのがあったりして、何か大きな認識の違いがあるように外から見ると見えてしまいますけど、私自身は実際にはそんな大きな違いはなくて、間もなく検討といいますか、田代ダム案についての検討が進められるのではないかなと思っています。

◆静岡朝日テレビ

今のお話ですと、あまり違いがないように思っているというお話だったのですが、その割に全然進んでいかないなというような思いというのはないんでしょうか。

◆市長

そうですね。どうしてかなというのは、そのとおりですね。ですから、やればいいと思うんですけど。小異といいますか、小さい意見の違いはあるかもしれませんが、どちらがどのようにこだわっておられるかというのは分かりませんが、早く進めるのが一番いいんじゃないかなと思います。今を進める中で次の問題点が出てくるので、あまり入り口でやらないほうがいいんじゃないかなと思いますね。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。リニアについて追加で質問させていただきます。先ほど難波市長は、流域の意向もあって今は入らないほうがいいんじゃないかみたいな話もありましたけれども、川勝知事に言わせると、これまで入っていない状況が異常な状態という発言が知事の定例会見でありましたけれども、それについては入らないことが異常な状態ということについてはどう思いますか。

◆市長

私は先ほど申しましたように、お誘いがあったから入るっていうのが、ですから、それが普通でしょうと思っていたわけですが、そうではない、今あまりお誘いされないような状況でもありますので、そういう中で入らないということについては川勝知事もご理解されるのではないかなと思います。

◆テレビ静岡

あともう1点。その件も含め、県と流域市町の間には若干の足並みがそろわない部分が今現状あると思うんですけれども。例えば染谷市長なんかは国交省に行ったときに、今、県とJRの関係はああ言えばこう言うという状況だと言って、それに対して川勝知事はもう少し議論の中身を見てほしいという形で、JRに対して協力して連携してやっているという状況には端から見ると見えないんですけれども、この状況を難波市長はどのように見えていますか。

◆市長

先ほど田代ダム案についてちょっと申し上げましたけれども、本当にどんな議論されているのか、外からは分からないんですよね。ですから県とJRの間で、どこに本当のところのこだわりが、認識の違いがあって、それでそのそういった検討が始まらないのかよく分からないんです。そのよく分からないことに対して、それを分かっていない人間、私もそうなのですが、あんまり論評すべきではないと思っています。早くやっってくださいねということをお願いするのが一番良くて、あまりいいとか悪いとか評価しないほうがいいんじゃないかなというのが私の考えです。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。私もリニアについて伺いますが、水の問題は承知しましたが、市が当事者である生態系や残土の問題について、静岡市も環境影響評価協議会を設置して議論してきているわけですが、協議会自体最後にやったのが去年の10月きりで、1年に1回も開かれていないようなペースです。市長は、市のリニアアセスメントはどのような段階にあって、今後どうすることを検証していかなくてはいけないという認識なんでしょうか。

◆市長

はい、市のアセスメントというのもありますけど、まず国の有識者会議これの進捗状況というのは極めて大事だと思っています。かなり進んできているようでもありますから、それに対して市の見解というのはやはりまとめる必要があると、早い段階からまとめる必要があると思っています。まとめるじゃなくて、ごめんなさい、早い段階から何らかの形で評価をしていく必要があります、そして

国の有識者会議の検討内容について意見があるようであれば、それはしっかりと申し上げていく必要があると思っています。そのためには、さっきおっしゃったリニアに関する市の検討の会議を早めに関いて、今の状況について一度確認をしたほうが良いというふうに思っています。委員長だとか座長ですかね。座長ですかね。会長ですかね。会長ともこれからご相談をして、まずは早めに関く必要があるのではないかなと思っています。そして、開いたうえでこれからどういう形で有識者会議に対して市が関わっていくかということも早めに考え方をまとめるのが必要ではないかなと思っています。

◆NHK

今の評議会、去年ので10回でしたか、その議論の経緯、今詳細に頭に入ってるっしゃるわけではないですか。

◆市長

いや、入っています。今何が問題になっているかというのは分かっていますが、それはあくまで外から紙で見るベースですので、本当のところはどこにどこまで本題があるのかというのは十分つかんでいるわけではありませんけども、何が今問題になっているのか、課題になっているのかは認識をしています。従って、その課題についてそろそろ市としても、こういう考え方、こういう方向でこれから関わっていかうということは決める必要があると思っています。

◆NHK

市が開くというよりは、私が把握している限りお花畑の影響についてJRがデータを示さないですとか、盛り土の深層崩壊についてもシミュレーションができていないですとか、どっちかというところJRの問題で止まっているのかなと思っていますが。いずれにしろ生態系と残土処理については、それは市としてしっかりやっていくというお立場は変わらないですね。

◆市長

そうですね。それで今誰がやっているのかやらないのかということも含めて、市の中で会を開いて一度現状認識を確認しておくというのが、まず一番最初にやるべきだと思っています。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

それではですね定刻を過ぎましたので、本日の記者会見は、

◆市長

いいですよ。まだ何かあれば。

◆司会

では、その他ございますでしょうか。ご質問ありますでしょうか。いかがでしょうか。

◆市長

よろしいですか。

◆NHK

すみません、時間せっかくおっしゃっていただいたので。蒸し返すようで申し訳ないんですけれども、4月22日の静岡新聞さんの報道についてなんですけれども、清水庁舎を清水駅東口に移転させてスタジアムと複合する意向を市長が示したというものでしたが、市長は当日のコメントですとか翌週の記者会見でそうした方向性は180度違うと否定されました。でも、それでもなお静岡新聞社さんの見解は、取材に基づいて報じたものであり、間違っているとは考えていないというものなんですね。市長、本当に静新が書いたような意向を事務事業事項説明の場で示したとか、そう取られても仕方ないかなと思えるような発言をしたという経緯はなかったのでしょうか。

◆市長

ないですね。はっきり申し上げてないです。

◆NHK

この件について静岡新聞社さん側に、どうしてあんな記事が出たのかと直接問いたですようなことはされたのですか。

◆市長

私はあんまりそういうその出た記事に対してどうのこうのとか抗議をするということは、これまでもあまりしない立場を取っていらしたので今回も特に抗議はしなくて、自分自身でしっかり発信をするというのが大事なかなと思います。

それは、書かれた方は書かれた方でそれなりの取材根拠があって書かれたんだろうと想像しますので、それはそれだとして、ただしどういうふうに解釈をされたか、解釈の問題があったのかもしれないですね。ただ、私自身がどういう指示をしたか、どういう見解を述べたかという、清水庁舎を東口のサッカースタジアムのところに入れるという話をしたことはありません。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他よろしいでしょうか。では、本日の記者会見はここまでとさせていただきます。

◆市長

ありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は5月24日11時からの予定となります。